

	学校自己評価総括	改善策	学校関係者評価総括																																																																												
福 生 第 二 中 学 校	<p>授業力の向上 全教員が、令和3・4年度市・研究奨励校としての研究テーマ「主体的に学ぶ生徒を育てるための工夫～生涯にわたって能動的に学び続けられる力を育成するために～」に基づいた授業改善を行った。</p> <p>生徒による授業アンケート「先生は数時間にわたる単元や題材全体で学ぶべき『めあて・テーマ』を示している。」の肯定的評価が92.3%、同じく「先生の毎時間の授業では、タブレット端末を活用した映像資料などを提示して学ぶ場面がある。」については86.2%であった。</p>	<p>改善策 昨年度に比し、生徒・保護者の肯定的評価の割合は高まっている。最終的な目標である主体的な学習の実現については、発表後もこの取組を継続していく必要がある。特に「個別最適な学び」についての工夫が重要である。</p>	<p>今年度も、昨年度同様にCS委員会の評価を「関係者評価」として扱う。CS委員9名に「本校のめざす生徒の姿」4項目、加えて「地域とともに歩み開かれた学校づくり」という視点で評価をいただいた。また、学校運営について校務分掌ごとにも評価をいただいた。</p> <p>評価についての標語は、 A：十分に満足できる B：おおむね満足できる C：やや課題がある D：おおいに課題がある</p> <p>である。</p>	<p>関係者評価は学校の自己評価および改善策を基本的に支持しており方向性において一致している。これを受け、令和5年度においては、特に全教職員が人権感覚を磨きコンプライアンスに基づいた指導を行うことを徹底しつつ、以下の点を重視し学校運営に取り組んでいく。</p>																																																																											
	<p>健全育成 令和4・5年度不登校児童生徒支援調査研究校として「魅力ある学校づくり」をめざし、研究テーマ「一人一人の生徒が夢や希望をもって生活する学校づくり」のもと、教師との信頼関係の確立、不登校の未然防止等に取り組んだ。</p> <p>生徒アンケート「学校には相談できる教職員がいる。」の肯定的評価は80%、保護者アンケート「学校には子供が相談できる教職員がいる」の肯定的評価は83%であった。この評価は、限りなく100%に近づけなければならない。より一層の努力が必要である。</p> <p>年度後半、学年ごとに「絆づくり」の取組を実施した。いじめアンケートに加えて行うアンケートにおいて数値の低かった回答に着目し、次学期の活動を計画し実行するという、年間3回のPDCAを繰り返すことを始めた。次年度もこの取組を継続し「魅力ある学校づくり」の成果を検証する。</p>	<p>保護者アンケート「教職員は、教育公務員ついてふさわしい人権感覚をもち、子供及び保護者に適切に接している。」について肯定的評価は81%である。コンプライアンスに基づいた対応等、さらに高い評価が得られるように努力が必要である。</p> <p>生徒アンケートによると、本校の二大行事への満足感は高く、また生徒会活動への参加も意欲的であることが分かる。今後は、より主体的な活動になるように各担当が工夫を重ねていくことが必要と考える。</p>	<p>令和4年度「生徒及び保護者による学校評価アンケート」の結果を踏まえて (数字は回答数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">内 容</th> <th colspan="4">評 価</th> </tr> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア</td> <td>考えを深め豊かに表現する生徒の育成</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>イ</td> <td>生命を尊重し心身を鍛え健全に生活する生徒の育成</td> <td>5</td> <td>3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td>自分自身と自分が関わる全ての人を大切にす生徒の育成</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>エ</td> <td>将来を見据え見通しをもって学び行動する生徒の育成</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ</td> <td>地域と共に歩み開かれた学校づくり</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目	内 容	評 価				A	B	C	D	ア	考えを深め豊かに表現する生徒の育成	4	3	1		イ	生命を尊重し心身を鍛え健全に生活する生徒の育成	5	3			ウ	自分自身と自分が関わる全ての人を大切にす生徒の育成	2	5	1		エ	将来を見据え見通しをもって学び行動する生徒の育成	4	3	1		オ	地域と共に歩み開かれた学校づくり	3	4	1		<p>(1) 授業改善の継続（授業での「居場所づくり」） ① 単元や題材のまとまりを重視し何をどのように学ぶかを確認する。また、何ができるようになったかを振り返る等の活動を通して、生徒の意欲を高め主体的な学習を促す。 ② 各種調査等により一人一人の学習状況を把握し、ICTを効果的に活用するなどして授業改善を行い、それぞれの達成の度合いに応じた学習が可能となる個別最適な学びを実現する。 ③ 各教科等における協働的な学習での学び合いや探究、発表の活動をとおして、自らの考えを深め適切に判断し表現する力の育成を図る。</p>																																			
	項目	内 容	評 価																																																																												
			A	B	C	D																																																																									
	ア	考えを深め豊かに表現する生徒の育成	4	3	1																																																																										
イ	生命を尊重し心身を鍛え健全に生活する生徒の育成	5	3																																																																												
ウ	自分自身と自分が関わる全ての人を大切にす生徒の育成	2	5	1																																																																											
エ	将来を見据え見通しをもって学び行動する生徒の育成	4	3	1																																																																											
オ	地域と共に歩み開かれた学校づくり	3	4	1																																																																											
<p>教職員の資質・能力向上 新規採用及び転入者に対し、「企画・起案様式」を用いた起案等の考え方を浸透させることができた。</p> <p>人権課題に関する研修は順調に実施され教職員の意識は高まっている。男女混合名簿の実施について、すでに実施している学校の情報を参考にして次年度の扱いを決定することができた。</p> <p>アンケート 「学校には相談できる教職員がいる」 肯定的評価 生徒80.0% 保護者83.0%</p> <p>美化ボランティアは11月末に実施し生徒約90名が参加し加美平グラウンドの清掃活動を行った。避難所運営に関する生徒参加型イベントは、1年生を対象に1月に実施することができた。</p>	<p>「企画・起案様式」への記載そのものが形骸化する恐れがある。次年度は現在取り組んでいる「魅力ある学校づくり」を実現していくための新たな目標設定と手立てを加えるように指導する。</p> <p>令和5年度より男女混合名簿に移行する。次年度は実施後の課題等について検討し対応する。教員の人権感覚は常に更新する必要がある。</p> <p>予定していた美化活動防災教育（避難所運営）、学校評価活動等を滞りなく実施することができた。CSの活動内容に対応して担当教員を割り当てることは管理職以外の教員の意識を高め、地域の方々とのコミュニケーションを深められ好評である。</p>	<p>令和4年度「職員による校務分掌自己評価」の結果を踏まえて</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">校内組織名</th> <th colspan="4">評 価</th> </tr> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教務部</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>生活指導部</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>進路指導部</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文化的行事委員会</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>体育的行事委員会</td> <td>4</td> <td>4</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>研究推進委員会</td> <td>4</td> <td>4</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>個別支援委員会</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ICT推進委員会</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>1学年</td> <td>5</td> <td>3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>2学年</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>3学年</td> <td>5</td> <td>3</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目	校内組織名	評 価				A	B	C	D	1	教務部	2	3	3		2	生活指導部	3	3	2		3	進路指導部	3	4	1		4	文化的行事委員会	4	3	1		5	体育的行事委員会	4	4			6	研究推進委員会	4	4			7	個別支援委員会	3	4	1		8	ICT推進委員会	2	5	1		9	1学年	5	3			10	2学年	4	3	1		11	3学年	5	3			<p>(2) 生徒の主体性を重視した学年・学級経営、学校行事、生徒会活動（「絆づくり」） ① 不登校児童・生徒支援調査研究校としての取組において、「学年・学年経営」「学校行事」「生徒会活動」の3分科会を設ける。生徒が活動に価値を見だし、主体的に活動に取り組み、達成感や連帯感を得られる支援を追究し実践する。 ② 情報活用能力の育成を各教科等の年間指導計画に位置付け計画的に行う。また、「SNS東京ノート」等を活用し、生徒が自ら考え行動することを重視し、デジタルシティズンシップの育成に努める。</p>
項目	校内組織名	評 価																																																																													
		A	B	C	D																																																																										
1	教務部	2	3	3																																																																											
2	生活指導部	3	3	2																																																																											
3	進路指導部	3	4	1																																																																											
4	文化的行事委員会	4	3	1																																																																											
5	体育的行事委員会	4	4																																																																												
6	研究推進委員会	4	4																																																																												
7	個別支援委員会	3	4	1																																																																											
8	ICT推進委員会	2	5	1																																																																											
9	1学年	5	3																																																																												
10	2学年	4	3	1																																																																											
11	3学年	5	3																																																																												
<p>二中校区の連携推進 年間2回設定された交流会を実施し、校区として取り組むべき課題について意見交換することができた。年度末に次年度に向け管理職・幹部職員間で会議を行い、交流会で出された課題等を整理し次年度の活動について検討することができた。</p>	<p>年度末に、管理職・幹部職員間で会議を行い、交流会で出された課題等を整理し次年度の活動について検討することができた。</p>	<p>学校関係者評価において、自己評価及び課題解決の方策について一定の理解を得たと考える。令和5年度は特に以下のことがらに確実に取り組む。</p> <p>(1) 「魅力ある学校づくり」の追究 令和4・5年度 不登校児童・生徒支援調査研究校として「一人一人の生徒が夢や希望をもって生活する学校づくり～生徒が活躍できる「仕掛け」の工夫～」をテーマに「魅力ある学校づくり」を行う。 令和3・4年度 福生市研究奨励校として「主体的に学ぶ生徒を育てるための工夫～生涯にわたって能動的に学び続けられる力を育成するために～」をテーマに取り組んだ成果を土台に授業改善をさらに進めるとともに、学年・学級経営、学校行事、生徒会活動において生徒の主体性を引き出す取組を実施し、「魅力ある学校づくり」を追究する。 (2) 信頼される教師の育成 昨年度に引き続き、教員の人権感覚を磨くとともに、特別支援教育、不登校対策等についてのOJTを充実させ、生徒及び保護者との信頼関係を築くことのできる教員の育成を図る。 また引き続き、特別支援教育、不登校対策等について造詣を深め、深い生徒理解に基づき生徒及び保護者との信頼関係を構築できるように努力していく。</p>	<p>(3) 生徒理解、特別支援、学校不対応対策 ① OJTを充実させ教員の人権感覚を磨くとともに、特別支援教育、不登校対策等について造詣を深めさせ、深い生徒理解に基づく生徒及び保護者との信頼関係を構築し、生徒がより良い生き方を追究するように指導・助言する。 ② 個別支援委員会（校内委員会）での情報共有を行い、特別支援教室及び日本語学級と通常級の連携を保ち、全教員が一体となった支援を行う体制を維持する。 ③ 不登校加配教員を、学校不対応・不登校対策担当とし問題解決の推進役とする。特別支援教育コーディネーターや外部機関と連携し、対応策を立案し支援の充実を図る。 (4) CSとして ① 放課後学習支援（水曜学習教室）の支援員を増員するとともに参加者の拡大を図る。 ② 「ふたばサポートチーム」（CS委員会）による健全育成の取組を活性化する。 ③ 学校支援地域組織と協働したボランティア活動や避難所運営に関する取組を充実させる。また実施において生徒会による「ふれあい月間」等の活動と連携する。 (5) 二中学区の連携推進 二中学区交流会で提案された取組について確実に具体化し一貫性ある指導を実現する。</p>																																																																												